

ホームID	ホーム名		法 人 名			評価日		
2817	ライフ&シニアハウス港北		株式会社生活科学運営			H29.2.7		
評価機関	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク					H29.2.16		
評価結果								
スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	B	6.2.4	A	A
1.2.1	B	A	2.3.8	A	非該当	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	B
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	C
1.3.2	B	A	2.4.1	B	B	6.2.9	B	B
1.3.3	B	A	2.4.2	A	B	6.3.1	A	B
1.4.1	B	B	2.4.3	A	A	6.3.2	B	A
1.4.2	A	A	2.4.4	B	B	6.3.3	C	C
1.4.3	B	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	B	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	B	B	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	B
1.4.7	A	A	3.1.3	A	B	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	A	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	C	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	B	4.1.2	A	A	7.4.4	B	B
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	B	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	B	B
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	B	A
2.2.8	A	A	5.2.2	B	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	B	7.6.1	A	A
2.2.10	A	B	5.2.4	C	B	7.6.2	A	A
2.2.11	B	B	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
2-3-3	サービスの質向上を目指し、ハウス職員のみでなく業務委託先の介護担当の「円」、食事担当の「れもんばーむ」、洗濯・清掃担当の「オリーブ」の職員も協働で担っている。特に、介護部門は、4階が「円」、3階がハウス職員と担当は分かれており、それぞれの持ち味をいかした介護を展開している。毎月の調整会議で話し合いを繰り返し、基本事項に相違がないか、標準化ができているか等お互い確認し、サービスの質向上に取り組んでいる。
2-3-4	入居者のニーズを把握するため、本社主導で満足度調査、食事アンケートを行い、集約・分析して運営懇談会で報告している。また、ハウス内に意見箱を置き、食事担当委託先の職員が入居者の意見を直接聞き取り、食事調整会議で検討する等、希望や満足度を把握して、対応を図っている。また、入居後3ヵ月間は入居担当職員が満足度調査を行い、結果をフィードバックする等、さらなるニーズ把握とサービス提供に努めている。
4-2-2	アクティビティとして、もちつき・芋煮会・夏祭りなど季節の行事に加え、短歌・麻雀・囲碁・百人一首などサークル活動も活発である。それぞれ行事起案書・報告書を作成し、評価・反省を行って次につなげている。さらに、近隣の保育園や小学校との交流がある他、地域住民も参加する介護予防体操、喫茶イベント、高齢者向けサロンも実施しており、ハウスが地域交流の拠点となるなど、さまざまな企画は、入居者の生きがいにつながっている。
6-1-1	入居者の本来の姿を引き出せるよう日々、介護・ケアマネ・看護が連携してサービスを提供している。また、地元住民で構成する「ワーカーズ・コレクティブ」が介護・食事等の一部を担っているが、主体的に出資・運営していて、団結力もあり家族に近い支援を提供できるなどメリットも多く、ハウスの職員とお互い同じ思いを共有して、支援にあたっている。さらに、ハウスは家族の目線での介護を実践し、看取りの希望にも応えている。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所見
2-1-2	ハウスの事業計画には、『ライフからシニアへの住み替えを視野に入れたフロントと介護の連携』や『「にやりほっと」の取り組みを通して魅力ある介護フロア作りを行う』等の「ハウス目標」を掲げ、事業を展開している。しかし、これらの目標を受けて各部門における事業目標は現在、定められていない。全職員が目標を持って取り組めるよう、フロント、介護、食事、看護、洗濯・清掃等、各部門における事業目標・計画の策定に期待したい。
2-4-2	職員の業務の標準化を図るため、本社策定の全ハウス共通の業務マニュアルに加え、「フロントスタッフルーチンワーク」「日中ルーチンチェック」「サークル関連」等、ハウス独自のマニュアルを策定している。ハウスのマニュアルは、全体が把握できる目次がなく、項目を整理して目次をつける等、活用しやすいファイリングの検討が望まれる。また、定期的な見直しルールの策定と改訂時の記録整備にも努められたい。
6-3-1	ハウス内研修として、介護予防・感染症予防・身体拘束・個人情報保護・看取り・認知症・感染症・倫理規程・緊急シミュレーションなど、多岐に渡った研修が実施されている。一方、三大介護をはじめとする介護に関する知識、技術、作業手順を盛り込んだ研修は、組織性の研修に比べ、数が少ない。職員の資質向上のためにも、経験や能力を踏まえた職種や職階ごとの職員研修計画を立て、計画性をもってハウス内研修の充実を図られたい。
7-5-5	機能訓練においては、看護職員が、機能訓練指導員を兼任し、医師の指示のもと実施している。「楓リハビリ参加チェック表」を作成し、参加状況の確認等行っているが、現在、個別の機能訓練計画は作成されていない。一人ひとりの入居者にあった機能訓練を提供できるよう、利用者本人や家族の意向、支援方針、課題、長期・短期目標、プログラム内容、実施方法、実施時間等記入した個別の機能訓練計画書の作成が望まれる。